



第140周年

甲府中学・甲府一高同窓会

令和2年(2020)11月21日(土)

甲府第一高等学校

日新

ともに想いを



あなたの、 いちばんメディア。

山日YBSグループのシンボルマークです。

もつともつと、ドキドキさせたい！ワクワクさせたい！

その「！」ビックリマーク」をモチーフに、

S(山日)とY(YBS)のどちらでもイメージさせる

ユニークなフォルムです。

「あなたの、いちばんメディア」をスローガンに、

次から次へ、新鮮な驚きと、新しい感動を、

お届けしてまいります。



Sannichi YBS Group

山日YBSグループ

甲府市北口2-6-10(〒400-8505)
電話番号案内 055-231-3000

山梨日日新聞社
山梨放送
アドブレーション社
サンニチ印刷
YBS T&L

山梨ニューメディアセンター
山梨文化学園
日本ネットワークサービス
デジタルデビジョン
ファーストビジョン

ウインテック コミュニケーションズ
新聞センター
山日リース
山梨文化会館

ともに想いを

第一四〇周年 甲府中学・甲府一高同窓会

目次

甲府中学校校歌・甲府第一高等学校校歌・応援歌	2
コロナ禍に翻弄されて	
甲府中学・甲府一高同窓会会長 宮島 雅展	4
コロナ禍における新しい方向性	
山梨県立甲府第一高等学校校長 小林俊一郎	5
実行委員長挨拶	
第一四〇周年 甲府中学・甲府一高同窓会 乙黒 洋	6
特集	
1. 第41回 国民体育大会 「かいじ国体」	7
2. 強行遠足 「昭和」と「平成・令和」	15
3. Back to the school life	
昭和六三年卒 version	25

昭和六三年卒業生クラス写真	29
恩師寄稿	33

広告目次	40
------	----

協賛広告 (1～113)

協賛者御芳名	159
--------	-----

学年協賛者氏名	160
---------	-----

第一四〇周年同窓会実行委員会組織	161
------------------	-----

編集後記	162
------	-----

甲府中学校校歌

一、我等は日本に生まれたり
神の御代より一系の
皇統戴く我国に
生れしことのうれしさよ
皇国の栄えは天地と
共に窮りなかるべし

二、大和島根に山めぐる
甲斐の国あり水清き
郷土の歴史顧みよ
我等の務め軽からず
見よや南に富士ヶ嶺は
皇国の鎮めと聳えたり

三、大海原の揺りやまぬ
波をも風をも凌ぎつつ
護れ皇国を諸共に
国民挙りて国のため
撓まず萎縮まず辟易がず
進むぞ大和ごころなる

甲府第一高等学校校歌

一、甲斐の国 我心中に建ちて
古へゆ 雄心伝へ
新しき 世の鑑とし
勉めてむ この学舎に

二、日に新た また日に新た
弥高き のぞみをもちて
真なる 理究め
励みなむ 若人我等

三、聳えたつ 芙蓉のたかね
清き哉 甲斐の山川
もろともに 玉と磨きて
賛くべし 天地の化育

希望の光

一、希望の光 身に浴びて

若人の意気負うて立つ

いま選手等の門出を

空もとどろに 応ふらん

二、敵軍いかに 猛くとも

忍び伏せたる梓弓

鍛えし腕引きしほり

敵のかぶとを 射落さん

鶴城に

一、鶴城に桜花咲き

人は皆歓楽に酔ふ

われ一人落花を浴びて

前の恥花園に泣きぬ

二、秋来る健児の胸に

強き意気宇宙も空し

桜花の旗ひとたび振れば

醜の群れ微塵に飛ばむ

ヤッツケロ ヤッツケロ

ヤッツケ ヤッツケ

ヤッツケロ

お御崎さん

お御崎さんの神主が

おみくじ引いて

申すには

いつも一高

勝ち勝ち

勝ち勝ち

ソレ勝ち勝ち

ソレ勝ち勝ち

起て撃て勝て

起て撃て勝て

甲府一高 一高

その名ぞ我が母校

仰ぐ芙蓉の峰さやか

穹天まさに轟かむ

見よ精鋭の集へるを

結べる眉に必勝の

誓ひは固しわれらが精鋭

おお

起て撃て勝て

甲府一高 一高

その名ぞ我が母校



実行委員長挨拶

第一四〇周年 甲府中学・甲府一高同窓会

実行委員長 乙黒 洋

私どものかけがえのない青春の一頁を謳歌致しました、母校である甲府中学・甲府一高が、創立百四十周年の佳節をお迎えになりました事は、大慶の極みと拝し心よりお祝いを申し上げます。更には明治十三年の創立より、大凡一世紀半の歴史を刻む、母校の輝かしい御興隆に尽くされた多くの先人に對し、深甚なる敬意と感謝を表するとともに、物故者の御霊に對し、謹んで哀悼の意を捧げたく存じます。

本年の第百四十周年甲府中学・甲府一高同窓会総会・懇親会につきましては、宮島同窓会会長、小林校長先生からの御挨拶にもございますが、当初、令和二年五月十六日(土)に、甲府市湯村 甲府記念日ホテルに於いて開催を予定し、私も昭和六十二年卒業生が当番幹事、十七歳年下の平成十七年卒業生が副当番幹事として、その企画や準備に取り組んで参りましたが、本年二月半ばより、新型コロナウイルス感染症の感染が全国的に拡がりを見せ、その状況が一向に改善に向かわず、非常に厳しい状況が続いた為、同窓会本会では事態を重く受け止め、会場は変えずに、十一月二十一日(土)に延期して開催する事を決定されました。しかし、その後も感染者数が増加の一途を辿り、収束の兆しがなかなか見えない事とともに、これまでのように千人を超える集まり、多人数による飲食を伴う会合を開催する事が、感染拡大に繋がる点などを踏まえ、改めて同窓会本会が、慎重にも慎重なる協議を重ねられた結果、誠に残念の極み、断腸の思いであつたかと思いますが、本年は懇親会の開催は不可能と判断され、十一月二十一日は規模を縮小し、母校に於いて総会のみを開催致す事となりました。

百四十周年という大きな節目となる本年の懇親会を、先輩諸賢を始めとする多くの同窓生の皆様が、心待ちにしておられたかと存じますが、熟慮の上での決断に對し当番幹事と云う立場で誠に僭越ではございますが、何卒御賢察と御理解を賜りますよう、伏して懇願申し上げます。

然しながら、本年の当番幹事を務める私も昭和六十三年卒業生を代表して、茲に御礼の気持ちなどを申し述べさせて戴く事に、お許しを頂戴致したく存じます。

先ず始めに、今回私どもが当番幹事を務めるのに際し、一方ならぬ御懇情と心温まる叱咤激励を賜りました宮島会長を始めとする同窓会役員以下同窓会関係者、そして諸先輩を始めとする同窓生の皆様、また小林校長先生を始めとする、甲府一高の諸先生並びに一高関係者の皆様、更に此度発刊となりました記念誌への広告協賛に際し、過分なる篤志をお寄せ下さいました七百余に上る各社各位等々、本当に多くの皆様に對しまして、改めて衷心より篤く御礼を申し上げます。先に述べましたように、前例の無い未曾有の難局とも云える状況にも拘わらず、皆様のお蔭、お力添えにより、当番幹事としての務めを、これまでなんとか果たして参る事が出来たと思うところであり、まして、本年の同窓会総会・懇親会に於いて掲げさせて戴くテーマを、「日新(ひ)にあらず」とともに

想いを」と致しました。三万余名にも及ぶ同窓生が在学中、事ある毎に見聞きし若き心に刻んだ、校是の一つである「日新(ひ)にあらず」。御高承の通りこの言葉には、人としての歩みを日々重ねる中、昨日よりも今日、そして今日よりも明日という、日々の努力の大切さ、進歩や発展の重要性が表れております。母校を巣立ち、各界で活躍されている皆様には、この「日新」の精神により培った心意気、言うなれば「高魂」を胸に、それぞれの素晴らしき歩みを重ねて来られたかと存じます。その「高魂」を、旧交を温めながら相互に通わせる場として、本年度の同窓会総会・懇親会を開催致したく、決めさせて戴きました。そして更に、「くとも想いを」とを副題的に加えさせて戴きました。年齢や世代は違えども、同窓生皆、同じ学び舎で勉学や部活動に励むとともに、友人と楽しく交流するなどの学校生活を送る中で抱いた、今も記憶に残るあの頃の「想い」。その「想い」を先輩後輩の隔てなく共有・交歓する場が、例年の同窓会総会・懇親会であり、また百四十年の永きに亘る母校の歴史の一端に、自身が少なからず関わっていることを再認識しながら、改めてその「想い」を強くするとともに、その歴史や伝統の「価値」や「重さ」を実感する機会となるのが、同窓会総会・懇親会であるかと存じます。私感乍ら「歴史の「価値」は「想い」を「重ねる」事によって、その「重み」を増す。」と思う次第です。

前述の通り、本年は例年同様には開催出来ない訳ですが、母校への「想い」や受け継がれてきた「価値」と「重さ」は、斯様な状況にあつても変わる事は些かもありません。シェイクスピアの「マクベス」にある名言「明けない夜はない」。百年に一度とも云われる現下の困難な状況も、人類の叡智により必ずや光明が差し、見事に克服し終息を迎え、再び平時の生活を取り戻すことが出来ると信じております。その晩には同窓会総会・懇親会が、ともに歴史を振り返りながら想いを重ねる場として、盛大に開催出来、ます事を願っております。

尚、余談ではございますが、私も昭和六十三年卒業生は、当番幹事を務めるにあたり、例年と同じく実行委員会を組織させて戴きました。その委員会名は、卒業年である「六十三」を「むつみ」と読み替え、「むつみ六三会」と致しました。当番幹事としての務めを通じて、同級生の輪を拡げ、強固なものとし、親睦を深めていこうと云う意味を込めて、命名に至った次第です。大変恐縮ではございますが、この誌面をお借りし、「むつみ六三会」二回の赤誠溢れる熱意、及び高い行動力と献身的な御協力に、感謝の言葉を申し述べさせて戴きます。

結びに、母校甲府一高の益々の御隆昌と甲府中学・甲府一高同窓会の尚一層の御発展、そして同窓生各位の御健勝、また在校生はもとより、未来に亘って母校の門を叩く後輩たちの御活躍を、切に祈念申し上げます。実行委員長としての御挨拶とさせていただきます。

乙黒 再拝

特集
1



第41回 国民体育大会

かいい国体

昭和61年(1986年)



役を担って

私たちにとって忘れることのできない
「かいじ国体」、純粋な気持ちで取り組んだ
当時の自分たちを思い出し、振り返ります。



東京オリンピック・パラリンピックの開催まであとわずかとなっておりますが、34年前、山梨県内ではオリンピックに勝るとも劣らない盛り上がりを見せたスポーツの祭典、第41回国民体育大会「かいじ国体」が本県を会場に開催されたのです。

これは「ふれあいの輪を広げよう」のスローガンのもとに、約82万人の県民が「一人一役」を担って成功に向かう県内では史上最大規模の事業であり、「冬季大会」「夏季大会」「秋季大会」「ふれあいのかいじ大会」を合わせ、17日間に渡る大会が繰り広げられました。当時競技会場として建設された施設が、30年以上たった現在においても各種スポーツ大会やレクリエーションの拠点として活用され、スポーツの活性化や健康作りの面で県民が大きな恩恵を受け続けています。

当時高校2年生であった私たちの中には、各種競技にて選手として出場する者以外にも、全員が「高校生としての役割」を担うこととなりましたので、それぞれの思い出を持っている唯一の同窓生となります。

特に「かいじ国体」で県民の力の象徴と

なったのは、昭和61年10月12日、現在の山梨中銀スタジアムで行われた開会式でした。この開会式で、「集団演技」と「吹奏楽隊」、「ファンファーレ隊」、「鼓隊」、「合唱隊」で編成された「式典音楽」の大集団が、渾身を込めた演奏、演技で県民の心意気を紹介しました。

これらの一部を担った高校生においても、部活動さながらの練習が何ヶ月も前から実施されました。

「集団演技」参加者は体育の時間が練習にあてられることが多くなり、水泳の授業があった際には、プールの中で練習を行ったこともありました。甲府市内及び周辺の高校、計7校、約1,800人の高校生が参加し行われたもので、演技時間は10分ほどで、演技の内容は現代のような激しい動きはなく、比較的覚えやすいものでした。

「式典音楽」は吹奏楽隊、ファンファーレ隊、鼓隊、合唱隊の総勢、約1,300人の高校生で編成されました。



かいじ国体の成功が、現在につながる 山梨の発展の礎となっています。

日本で最初の国民体育大会は、昭和21年秋、戦災を免れた京都を中心に開催されました。戦争の傷跡が深かった当時でしたが、全国から選手が食糧持参で集まり力一杯の熱戦を繰り広げ、戦後日本の復興の原動力の1つとなったようです。そして国体は県民の総力を挙げて取り組むふるさと作りへの祭典へと発展していくことになります。

国体の山梨開催が決定したのは昭和52年のことでした。開催にあたって、当時不安も多く、「富士山」と言えば、静岡県と言われるほど山梨の知名度は低い上に、人口80万という小さな県であることのコンプレックスも県国体局の中で感じていた部分もあったようです。そのため、「他県並みに国体を開催するには県民が一丸となるしかない」と国体県民運動推進協議会が結成されました。

かいじ国体の大きな特徴と言えば、開催規模の大きさでした。昭和60年1月に開催された冬季大会のスケート(富士吉田市)とアイスホッケー(河口湖町)の2競技をはじめ、夏季大会4競技、秋季大会33競技のあわせて39の競技が39の市町村で行われました。

また、開会式参加人数は、夏季大会 約7,000人、秋季大会 約72,000人の史上希に見る大規模なスケールで実施さ

れたのです。

国体の成功に向け、早い段階から主役は県民一人一人であるという「一人一役」の推進が提起され、「県民の健康づくりの推進」「心の触れあう社会の構築」「美しい環境づくり」「郷土愛のほぐくみ」等をテーマとした県民運動が、家庭、地域、学校、職場において実施されました。特に、開催期間中は全国から多くの選手や関係者が来県するため、心のこもった「おもてなし」が実践できるように、「親切心」や「公德心」の向上のための取り組みにも力が注がれました。また、秋季大会では宿泊施設が不足するため、民泊の受け入れを行った家庭も多く、ここでも全国の選手たちと地域の人々との間に心のこもったふれあいが生まれることになりました。

当時実施された様々な県民運動は、一過性のもので終わらせるのではなく、国体終了後も将来に及び継続して県民生活の中に強く定着することが望まれ、現在においても、当時の思いを継承し、より良い県民性の伸長と明るく豊かな郷土の発展を図る自覚を県民一人一人が持ち続けていることに違いありません。

また、バブル景気の後押しもあり、県民生活に関わりの深いインフラ整備も開催に向



け着々と進められました。馴染み深い山梨の玄関口、甲府駅ビルが完成したのも開催前年のことでした。このような国体開催を媒介とした県民生活の変化は誰の目にもはっきりと映り、明るい山梨の未来を思い描くことが容易にできました。



かいじ国体を永く記念する小瀬スポーツ公園の広場。クラフトタワーと池、それを取り巻く緑の広場が躍動する山梨県の姿と山なみの美しさ、渓谷美、深遠さを表している。



現存する、当時のステッカー



御製「晴れわたる 秋の広場に人びとのよろこびみつる 甲斐路国体」

こうして、様々な分野において新たな県づくりを推進する起爆剤の性格を持ったかいじ国体の開催が、将来を見通したステップアップのための重要な手段となり、現在につながる山梨の発展の礎となったのです。

かいじ国体を終えて

「天皇杯(男女総合優勝)獲得」を目標に掲げた県選手の活躍は目覚ましく、38競技(公開競技を除く)のうち、21競技に総合優勝し、天皇杯を獲得しました。国体の成功や県選手団の成績は県民の誇りとなり、県民が「やればできる」と自信をもちました。この自信がその後の山梨の発展の原動力となったことに違いありません。

それから約2年後、「山梨の昭和」は幕を閉じます。そして時代は「平成」「令和」へ。

山梨も、少子高齢化や都市部への人口流出など様々な課題に直面する一方、既に7年を切った「リニア中央新幹線」の開通が、県内の産業や暮らしに大きな効果をもたらすことが期待されています。

今後、かいじ国体成功のDNAを受け継いだ次世代県民の叡智の結集で、さらに力強い山梨の未来が築かれていくことを信じてやみません。

それぞれのかいじ国体

集団演技

「集団演技雑感」

原 純子

目も覚めるような真っ赤なレオタードにブルーのポンポン。

今の時代ならセクハラを疑いたくなる集団演技の衣装は思春期真っ只中の私たちにとって衝撃的でした。

演技のテーマは「限らない躍動」。甲斐路に結ばれた人々の心意気が、明日に向かって限りなく躍動する姿を表現したのですが、壮大なテーマとは裏腹に衣装を見るにつけ心が萎えていったのを覚えています。

時間にすれば10分程度の演技の為に1,800人も高校生が参加、体育の授業は演技の練習に割かれ、小瀬での他校との合同練習など多くの時間と費用が費やされました。

かいじ国体の資料を見ると当時のバブル前夜ともいべき時代を背景に、国体を通して山梨の勢いと発展、未来への希望をアピールしようという意気込みが感じられます。

少子化や県都中心街の空洞化等、衰退が取り沙汰される現在の状況から見ると今昔の感があります。

知命を過ぎた今、山梨が元気だった「あのころ」の時代の空気に触れてみたいと思うのは私だけでしょうか。もちろんあのレオタードは2度とご免ですが。



男子集団演技



女子集団演技



合唱隊

「かいじ国体合唱隊の思い出」

若林 実

世の中は因果応報、当時高校生であった自分に
まじめにやれと教えてやりたい……。

かいじ国体には合唱隊の一員として参加し
た。別に合唱が好きでも得意でもなかったが、た
またま高校の選択授業で音楽を選択していたの
で、本人の意思とは関係なく合唱隊に編入された
のだ。そういうことであるから、国体の合唱練習
に参加しても、一高の合唱隊は周囲の冷たい視線
を浴びていた。練習会も何回か行われたが、時間
が早く過ぎてくれと祈るばかりで、国体の合唱は
苦痛、それ以上の苦行ともいえた。本番が近づく
につれ、練習にも熱が入っていくが、一高のやる
気のない合唱隊のとなりに、よりによってめちゃ
めちゃやる気のあるママさんコーラス隊が配置
され、その反動とオフサイドぎみともいえるママ
さんたちのお節介りに苦慮したものである。

本番当日になると、これが国体というものなの
かという感動と、ピチピチの体操着を着てパー
フォーマンスを見ている他の一高の仲間たち
を見て、つまらない安堵感を得た。47都道府県の
選手が続々と入場してくる。会場はお祭りのよ
うな高揚感につつまれ、活気に満ちていたが、自
分はそんなことより、はやくこの苦行ともいえる
この国体が一刻も早く終わることだけを考えて
いた。トラックを周回する選手団を眺めている

と、県名の書かれたプラカードを持った他校の女
生徒が選手団を先導していたが、京都のプラカー
ドをもった生徒が輝き放ち、釘付けになったのを
覚えている。国体も終了し、解散式が行われた。
解散式終了時には感極まって歓声を上げる人や、
支給された山梨カラーの帽子を投げて喜びを味
わう人など様々であったことを覚えている。自
分も帽子を投げた。思いつき投げた。苦行か
らの解放……とにかく遠くに投げてやった。

やはり罰が当たったのだらう、その年の強行遠
足は国体の関係で一か月遅れとなった。それ
より、強行遠足前日はラグビーの試合の日になっ
た。日川高校と122対0という、スクール
ウォーズも真っ青の大敗であった。ボロボロの
体のまま強行遠足へ。その強行遠足で両足を捻
挫し、苦痛をこらえて小諸に到着。結果全治1か
月のけがを負った。

余談になるが、うちの妻は国体の時のプラカー
ド係である。京都のプラカードを持っていたか
どうかは想像にお任せする……。



男女合唱隊

マーチングバンド

一かいじ国体合唱隊の思い出

山内 徹

リードマスターの笛が快晴の空に響き渡り、指揮杖のテンポに合わせ、パーカッション隊の打音と足踏みが始まる。いよいよ小瀬陸上競技場内への行進が始まる。

この一年前の夏休み、応援団吹奏楽部入部後、初めての定期演奏会と五年連続県代表となった吹奏楽コンクールを終えた雨宮由和と僕は日本ランド【現ぐりんぱ】での三泊四日のマーチング合宿に楽器を持たず参加していた。到着後から終日みっちりで行進やフォーメーションに明け暮れ、最終日にはまるで運動部のように日焼けの跡が残った。

学校に戻ってからは連日部活後に日新ホール屋上で行進練習に励み、並行して演奏曲も練習、足踏みしながら演奏するなど全体合宿に向けて準備を進めた。合宿は甲府市内の県立高校4校と甲府市内の中学校2校の吹奏楽部員が一堂に会して行われた。普段、練習出来ないフォーメーションに多くの時間を費やした。殆どの参加者が楽器を持って動きながら楽譜を見ず演奏することに戸惑いを感じた。特にスーザホンやパーカッションなど重い楽器の担当はその思いが強かったであろう。僕は楽器がランペットで良かったと思った。本番前の合宿では、他校の生徒とも打ち解け、それと

比例して練習を重ねる度にチームワークも演奏もフォーメーションも良くなった。最初は披露出来るレベルに仕上がるのかと心配したがその不安は徐々に消えて行った。

隊列を組んで芝生グラウンドまで行進、各自ポジションに就く。一年間の集大成を見せる時が来た。エル・ティグレ、禿山の一夜、1812年、シングシングシングとジャンルの異なる曲を演奏し終えた時、会場は拍手の渦に、そして僕らは感動の渦に包まれた。かいい国体は僕の甲府一高生活の思い出の一ページとして今でも鮮明に焼き付いている。



男女マーチングバンド

参加選手

アーチェリー

長田 道也

当時、高校生にとって国体と言えば、総合開会式でマスゲームを披露する。誰もが派手な赤い衣装で、踊ることに大きな抵抗感をもっていた。授業で練習、小瀬に集まって全体練習。誰もが「嫌だ・恥ずかしい」と言っていたことを覚えていて。さらには、マスゲームだけでなく、「若い力」など国体の歌も覚えさせられた。私もマスゲームの練習に参加したが、途中から強化選手は、マスゲームからは外された。みんなには申し訳なかったが、正直、ラッキーだと思った。

一高アーチェリー部のメンバーは、国体に向けた練習を頑張った。毎月、合宿や遠征を何度も行っていた。だから学園祭にも参加していない。当時は、みんなが学園祭の話題で盛り上がっている時は、うらやましかった。

本大会の3ヶ月くらい前からは長期の合宿が続き、9月は高校へほとんど行くこともなかった。高校2年の勉強を、合宿や遠征を言い訳にして、全くしなくなったことを覚えている。まあ、もともとでも悪かったもので…。当時はそれで良かったが、今となれば高校生らしく、もう少し勉強を頑張っていたらと思う。

最後に少年男子の結果はダメであったが、望月歩(旧・石川)を含む少年女子が、団体で優勝・大会新記録を出したが、一番良かったことで有り、強く記憶に残っている。

硬式テニス

樋口 勇人

甲府中学・甲府一高140周年同窓会記念誌発行、誠におめでとございます。心よりお祝い申し上げます。

高校2年時に山梨県で国体(かいじ国体)が開催されたため、小学校5年生でテニスの国体強化選手に選出され、強化チームである甲府一高テニス部に進みました。高校時代、朝は授業前の早朝練習、授業が終わると掃除も免除され早々に小瀬スポーツ公園のテニスコートで練習、1週間に1度は河口湖のテニスクラブで特訓、週末の金、土日は県外に遠征しての対外試合。私の高校時代は、正しくテニスさんまの毎日でした。

小学2年からテニスを始め、それなりに結果も出してきた当時の私は、生意気な高校生だったのだと思います。今では考えられませんが、当時のコーチから鼻の骨が曲がるくらい殴られながら指導を受けたことを覚えています。

そんな高校時代の厳しい指導から学んだことは、謙虚な心を持つ事と日々の積み重ねが成果を生む、という事です。高校2年のインターハイでは県代表として全国大会に出場、かいじ国体でも5位という成績を残すことができ、厳しい日々の中にも充実した何物にも代えられない高校時代になりました。

現在私は、父の家業を継ぎ会社を経営していますがテニスを通じて高校時代に学んだ事は、今の生き方にも大いに生かされています。高校時代に得たこと、そして「一高魂」を胸にこれからも日々精進して行きたいと思います。

同級生のかいじ国体成績結果 ※甲府一高新聞より

飛びこみ

- 少年男子・板飛びこみ…清水 宏徳(5位)
- 少年男子・高飛びこみ…芹沢 速人(13位)

アーチェリー

- 少年男子・団体…(6位)
- 少年男子・個人…石水 和彦(14位)
長田 道也(24位)
- 少年女子・団体…(優勝)

テニス

- 少年男子…準々決勝 石川 2-1 山梨
- 少年女子…準 決 勝 広島 3-0 山梨

かいじ国体の思い出

嶋田 幸子

ボールガールってご存じですか? テニスのUSオープンでは全身ラルフローレンの紺のウェアを身につけ、転がってきたボールを素早く拾い、選手に華麗に手渡す姿を思い浮かべる人も多いでしょう。

今から30数年前、私は部活が硬式テニス部だった縁でかいじ国体にボールガールで参加しました。もちろんウェアはラルフローレンではなく、YONEXのふどう色のジャージ。それこそ頭のとっぺんからつま先まで、全身山梨カラーのウェアを残念な気持ちで着たことを思い出します。ウェア以外の思い出では、ひとつのラリーが長いとそれこそ3分位、ネット際ですとクラウチングスタートの恰好でいるので、腰が痛くて大変だったことを覚えています。

高校から始めたテニスは上手くはなかったですが、国体でのボールガールの経験で一流の試合を目の前で見られたことで、よりテニスを好きになり、その後の大学でのサークル、社会人の実業団と今でもテニスを通して、多くの友人と楽しい汗を流しています。

特集

2

強行遠足

『昭和』と『平成・令和』



強行遠足

回数	年度	人数
1回	大正13(1924)	
5回	昭和3(1928)	
6回	昭和4(1929)	
25回	昭和24(1949)	

第1回～第25回

18,619人

出来事

- T 13 検印は乗車する国鉄駅の駅長
- T 14 出発時間は自由(0時から6時までの間に学校事務所で証印をもらって各自出発)
- T 15 検印所は極秘 目印は提灯(巡回と生徒の反則行為を防止)
- S 5 実施要項作成(途中にて火を燃やさないこと。など)
- S 8 松本駅でうどんを振る舞い始める
- S 17 砂糖、薬品の特別配給を県に申請
- S 18 北巨摩出身の輿水老人の参加を許可
- S 19 印刷物は全て生徒のテスト答案の裏を使用
- S 20 大東亜戦争終戦につき中止
- S 23 新制高校となる

Q1

第13回(S11)大会で、松本駅にて、信濃民報社、時事新聞社、東京朝日松本支局から提供されたものは？

- A…リンゴ
- B…草鞋(わらじ)
- C…キャラメル

昭和18年スタイル

- ・制服制帽
- ・わらじ
- ・ゲートル
- ・杖、風呂敷
- ・下駄・マントは不可



45
回

昭和45
(1970)

37
回

昭和37
(1962)

36
回

昭和36
(1961)

26
回

昭和25
(1950)

昭和37年より終点地制を開始

信濃大町方面

第26回～第36回

12,868人

【信濃大町方面】

S 25 女子が参加する
(女子・6時間)

S 29 ビニール製の雨具が使われ始める

S 32 道路の舗装化が始まる

S 32 PTAに手伝いが始まる

S 34 伊勢湾台風の影響を受け中止

S 35 巡視車に4台の無線機使用

【小諸方面】

S 37 清里清泉寮にてフオークダンス等のレクレーションを企画

S 38 男子：終点中込(87・0km)

S 39 3C時代。保護者の自動車での応援の在り方が問題に

S 41 未舗装道路が多く、女子はマスクを着用

S 45 白田のおばさんに感謝状

Q3

第42回(S42)大会で、2名の不正行為者があった。2名がやったことは何か？

- A…途中で車を使った
- B…途中で電車を使った
- C…途中で自転車を使った

昭和36年スタイル

- ・制服制帽
- ・白ズボン
- ・くつ
- ・杖
- ・風呂敷



Q2

第34回(S33)大会で、強行遠足の映画撮影をすることになった。その資金捻出のために映画の前売券販売を行うこととなった。その映画とは？

- A…十戒
- B…ベン・ハー
- C…ローマの休日

Q4

chronicle

46
回

回

昭和46
(1971)

年度

第52回(S52)大会では、巡視車が警察から警告を受けた。警察は何に対して警告をしたのか。

- A…巡視車に教員が7人乗っていた
- B…巡視車に回転灯を付けていた
- C…巡視車に「甲府一高」の大きな看板を付けていた

小諸方面

第37回～第76回

45,335人

人数

出来事

【小諸方面】

男子…小諸(103.0km)
女子…小海(43.5km)

S 46 男子帽子に反射テープ使用

S 48 部外者(OBを含む)の参加を禁止

S 50 女子終点小海でお汁粉の差し入れ

S 52 男子白ズボンに夜光テープ使用

S 54 交通事故防止のための看板を10本作成し取り付けるも、2本が盗難に遭う

S 62 男子夜光反射付きのタスキ使用



S 62 野辺山でのしじみ汁作りが、薪からプロパンガスになる
H 2 「白田のおばちゃん」から「コリアーズエンサイクロペディア」が寄贈される

Q5

第61回(S61)大会では、強行遠足が例年より1か月遅い11月に開催された。なぜ遅くなったのか。

- A…台風で道路状況が悪かったため
- B…巨人と広島が優勝争いをしていたため
- C…かいじ国体の参加のため

昭和55年スタイル

- ・制服
- ・白ズボン
- ・白帽
- ・蛍光テープ



92 回	87 回	86 回	82 回	81 回	77 回	76 回
平成 30 (2 0 1 8)	平成 25 (2 0 1 3)	平成 24 (2 0 1 2)	平成 20 (2 0 0 8)	平成 19 (2 0 0 7)	平成 15 (2 0 0 3)	平成 14 (2 0 0 2)

小海小諸方面

99,290人

第87回～第92回

3,552人

小海野辺山方面

第82回～第86回

3,955人

野辺山方面

第77回～第81回

4,210人

R1 台風のため中止

【小海小諸方面】

男子：小諸(105.7km)
女子：小海(43.2km)

H23 検印システムとしてバーコード認証を導入

【小海野辺山方面】

男子：小海(76.3km)
女子：野辺山(30.3km)

H19 マトリックスICタグ導入

H18 AEDを導入

H16 雨天中止

【野辺山方面】

男子：野辺山(53.7km)
女子：野辺山(31.0km)

H4 女子最終小海でコンピュータによる記録集計が始まる
H8 小諸市長の人事異動により、小諸到着上位30名に贈られていた色紙の廃止

強行遠足出発点

Global High School

山梨県立甲府第一高等学校

平成スタイル

- ・体育着
- ・蛍光タスキ
- ・両腕用反射バンド
- ・防寒着
- ・ヘッドライト



参考資料…

『百年のあゆみ』H3

『佐久往還強行遠足20周年記念誌』S57

『第90回強行遠足記念誌』H29

答え …Q1=C・Q2=A・Q3=A・Q4=B・Q5=C

ね着した場合でも学ランは一番上に着用しなければいけないというこれまたすごい決まりもあり、これが永らく受け継がれてきた強行遠足の伝統的スタイルだったのだ。

男子生徒も口ではタサくてありえないよな、と言いつつも、その伝統的な装いに少しの恥じらいと大きな誇りを胸に抱えて一高の正門を元氣よく飛び出していったのだ。

第77回より距離・コースの見直しを図られ、そのタイミングで現在の服装に変更し、男子生徒も女子生徒と同様に学年色のジャージとなった。そのジャージの背中には反射板が付いており、まさに強行遠足仕様の現代的で実用的な服装になっているのである。



昭和の服装



平成の服装

終わりに...

この強行遠足は一高の教職員の方を始め、保護者・同窓生、関係機関の方々、そして沿道の方々の温かく、惜しみない協力のもとに成り立っている。安全第一のルートを設定し、交差点や危険と思われる所には誘導員を配置し、救護所を準備し、何が起こってもすぐに対応できる万全の体制を敷いてくれているのだ。自分たちが生徒として参加していた時には全く気付かなかったこのようなサポートがあったからこそ今こうして強行遠足の思い出に浸る事が出来るのだ。

時代とともにその姿を少しずつ変えてきた強行遠足だが、今も昔も変わらないことがひとつある。それは参加している一高生の強行遠足に対するひたむきな思いである。

ゴールが近づくにつれ段々と重くなっていく足をひきずりながら、仲間と励ましあいながら、辛くても苦しくても心が折れそうになっても、それでも一歩でも前へ、1メートルでも先へ進もうとするそのひたむきな思い。その過程でそれぞれの胸に色々な感情が沸き上がり、それぞれの強行遠足の思い出が作られ、それが伝統となって引き継がれていく。

甲府一高を象徴する伝統行事であるこの強行遠足。これからもたくさんさんの思い出やドラマを演出していくことだろう。そのためにもこれから先永遠に続いていって欲しいと私は願ってやまない...



強行遠足の思い出

強行遠足が与えてくれたもの

林 宏之

「箕輪新町」、この国道141号線沿いの町の名を忘れることは一生ないと思う。私の最後の強行遠足が終わった場所だ。甲府に向かう車の中、腰の痛みを堪えながら、涙で滲んだ街路灯の光が流れていくのをただ見つめていた。

走ることが好きだったので、一高に決まった時に強行遠足に挑戦できることが嬉しかった。一年の時は無我夢中で走り、全体で4位、学年別では1位。二年時は前年の経験からペース配分を考えて走り、当時の新記録でゴールテープを切ることができた。

そして三年時。部活も引退して身体の状態が昨年とは違うことは分かっていたので、ゆっくり行こうかとも考えた。膝と腰の痛みが出てから歩いても小諸に着けるよう、前半でできるだけ時間と距離を稼ごうと思い、二年時と同じようなペースでスタートした。

しかし、悪い不安は的中し、皮肉にも前年三年生のトップに追いついた若神子を過ぎたあたりで、今まで経験したことのない腰の痛みで動けなくなり、ガードレールにもたれかかりながら、次々と追い越されるのを呆然と見つめるしかなかった。それでも何とか箕輪新町にたどり着き、痛みが治まるのを待ったが動けず、待機してくださっていた医師に痛み止めをとお願ひしたものの、無理はさせられないという判断でリタイア決定となった。甲府からわずか30km、あつけない幕切れだった。

その後、様々な経験を重ねたが、リタイアの記憶は薄れることはなく、今でも自分の中には常に箕輪新町の検印所から見つめた国道141号線と慰めの言葉をかけてくださり、自宅まで送っていただいた父兄の皆様の姿がある。

最初は悪いなりにケガをコントロールできなかった悔しさと期待の言葉をかけてくれた家族や友人への申し訳なさや恥ずかしさしかなかったが、歳を重ねるにつれ、徐々にそれは残りの検印所でひとつずつ印を受け、最後に自分なりの小諸に到着したい、そのためにはとにかくチャレンジを続けようという思いに変わっていった。

今、私はやりたかった国際協力の仕事をしている。前職では中国のほとんど全省を、現在の仕事では50以上の国や地域に出張しているが、初めての国・地域では日本との違いに戸惑うことも多い。そんな仕事が無事に終わるたびに検印カードにひとつ印を押していたような気持ちになる。ゴールはまだ見えないが、強行遠足が多くの父兄の皆様と先生方に支えられているように、周りと支えあつて前に進んでいきたいと思う。

100kmという距離を踏破する経験はなかなか得られるものではない。私は今では完走とリタイアの両方を経験できてよかったと、この貴重な経験に感謝し、現役の一高生がこの伝統行事を通じて、自分なりに何かを感じてくれることを願っている。

私は果たして今、残り何km地点にいるのか皆目わからないが、白田のおばあちゃんの暖かい手からりんごとコーヒ―牛乳を手渡していただける

ことを楽しみにこれからも前を向いて歩いていくことにしよう。

強行遠足からの学び

星野 貴則

私達63卒生が高校受験の頃、受験戦争などと良く騒がれた時代でした。甲府では希望する普通科の公立高校に入学するのは難しい環境でした。甲府市は一高、西高、南高、東高、昭和、5つの高校が『総合選抜』と呼ばれ、この5校の中で希望する高校があると『総合選抜』を受験し、合格発表当日に入学する高校が掲示版に貼り出されて知られるというものでした。自身は北西中出身であったため、受験者の多くは一高・西高に振り分けられていました。ですから確率的には一高に行くのだらうと何となくわかっていました。しかしバイク通学に憧れていた自分は、一高が第一志望でなかったことを覚えています……。なんといつても一高には強行遠足があり、100km以上を歩き抜かなければならない！と中学生の頃に周囲から散々聞かされていた(どこの誰から聞いたかも覚えていないのですが)自分にとって、一高合格は喜びと共に、自信がなく不安な気持ちであったことが今も思い出されます。

(今にして思えば、個人的には強行遠足よりも応援練習の方が何倍も辛かったのですが。)

高校生活やクラスにも大分慣れ、一高祭を終え

少し涼しくなる10月、当時も強行遠足が実施されておりました。一年生の時、強行遠足初挑戦であったため、ズボンの反射材を付けながら母がとても心配してたのを良く覚えています。自分も親となり、当時の母の思いが本当に良く理解できます。そんな当時の自分というところ、勿論完走し良い成績を取る！などとは間違っても思っておらず、体力・持久力・根性に全く自信が無かったわけで、完走目標だけれど完走できないだろうと思っていました。しかしそれなりの準備はしておこうと考え、反射材のタスキをかけて夜道を走ったり、歩いたり、シューズを慣らしたり・個人練習も少しだけしてみました。しかしそれだけで急に体力が付く訳もなく、それも長続きせず本番を迎えたと思います。3年間の途中で唯一かいじ国体が開催された昭和61年に限り、11月の極寒の時期に実施されましたよね。この年の夜の寒さ・辛さは尋常でなく、とても鮮明に覚えています。

ここまで当時を思い出しながら書き進めやつと文面で明かします。実は!!恥ずかしながら自分は3年間を通じて最終目的地小諸まで完走できずに『強行遠足』を終えました。途中の検印所で『強行遠足』を終える決断を3年間で3回も経験したのです(笑)。それでも年々到着地点を延ばし1年生で海の口、2年生で小海、3年生で白田か中込?で終えたと思います(30年も経つと記憶があやふやで、3年時の最終到達地がはっきり思い出せません)。3年間一人きりで歩いてはいないと思うので、友達何人かと一緒に励まし合いながら歩いていたのは確かですが、断片的に覚えているだけで、一緒に歩いた友達も全員思い出せません。ただ当時の自分は去年よりは先へ先へ行きたい!という思いだけで必死に歩き続けていたのを覚えています。少しでも去年の自分を越えたいと思います

が寒さや辛さ、痛みに耐えて只々歩いていました。強行遠足に参加する中で、自分の置かれた状況に応じて自ら小諸到着という目標を修正し、目標を諦めず臨んでいた自分が在ったのは確かです。そう出来たことに自己満足かも知れませんが自分の達成感がありました。

今回寄稿作成にあたり、小諸まで到着出来なかった強行遠足の学びを自分なりに振り返りました。

ひとつ、目標を持つことが大切で、そうすることで達成感が得られるということです。偶然ですが当時は何も考えず、完走する目標を持ちながらそれを途中目標を都合よく修正したわけですが、自分自身達成感を得られました。大切なのは目標を持つこと。目標自体は自分自身で修正して変更しても、達成感は得られるものなのです。その目標を少しづつ高めれば成長できるのだと学びました。

ふたつ、決断力を養える機会となったことです。時間制限や自身の体力限界など、状況を見極めて決断に迫られる場面があったと思います。判断・決断力は社会においても重要ですが、それを養える機会になったのではないかと考えます。

最後に、3年間を通じて小諸に到着していませんので、到着して学べたことはわかりません(笑)。

強行遠足の思い出:

深澤 一浩

昭和60年4月、歴史と伝統ある甲府一高に入学し、部活は中学時代から続いていた陸上部に入部した。ところが、当時の陸上部は「かいじ国体」の強化指定校であったため、多くの先輩や同級生に強化指定選手があり、必然的に練習はきつく、素人同然の私は皆に付いて行くのがやっとの毎日だった。

夏が過ぎ、秋の新人戦に向けて練習をしていたある日、顧問の先生から「10月の強行遠足は、直後に新人戦を控えているので、疲労の蓄積を避けるため陸上部(1、2年生)は葦崎止まりになったから。」と指示があった。先輩の中には、参加しさえすれば当然上位に入る方もおり、とても残念そうであった反面、私は長距離が全くダメで、強行遠足を途中で終えられる、というずるい安堵感があった。それでも一高に來たのに伝統行事をまともに走れない悔しさと、長距離が苦手だけに小諸までの限られたチャンスが1回減ってしまったことへの虚しさで心は一杯だった。また本番が近づくにつれ、周囲からは「陸上部はいいよな、葦崎止まりで。」など何度も冷やかされたが、内心では「本当は走りたいんだよ」と強く叫んでいた。

当日、葦崎までの約15キロは長いようであつという間だった。ただ、大会を数日後に控え、疲労を残さないように走るため、皆にはドンドン追い抜かれ、最後に検印所を後にする時は複雑な心境だった。

結局、2年時は白田で精根尽き果て、小諸まで完走できたのは3年時の1回だけだった。

今思い出すと、葦崎止まりで終わった時の悔しく複雑な思いが、3年間陸上部を続けて来られた糧となったことは言うまでもない。また、それ以上に、一高を卒業してこれまでに多くの困難や大きな壁に直面したが、その都度、小諸までの1回だけの道程を思い出し、「何のこれしき。強行遠足の辛さに比べたらこんなことは苦勞のうちに入らない」と強く自分を鼓舞してやってこられた。

強行遠足には、完走した者のみならず、途中で挫折した者にとっても、人生に大きな影響を及ぼす不思議な力があると信じる。



特集 3

Back to the school life

～ 昭和63年卒 version ～

今年創立140周年を迎えた甲府一高。

私たち昭和63年卒業生は

昭和最後の卒業生です。

薄れゆく記憶を紐解きながら、

昭和最後の一高生活の思い出を辿ってみました。

皆様の一高生活と比べながら、

一緒に思いを馳せてみませんか？

新入生歓迎会

- ④今は無き県民会館の大ホールで開催された。文化部中心で様々な出し物(フォーク&ロック、ギター、琴、吹奏楽、演劇...)で先輩達ってすごいなあと思った
- ⑤応援練習の時の厳しかった先輩と新入生歓迎会で優しくなった先輩のギャップの激しさに驚いた
- ⑥応援団が出てきてびっくりしたのを覚えている、また応援練習が始まるのか?と思った

応援練習



- ④応援練習ってどんな感じかなあ〜なんて呑気に話していると、教室の戸が勢いよく開き「こら〜 ほっぴと支度しろよ! もたもたしてんじゃね〜よ!!」との怒号
え? 何? 何なの? と状況を把握する間もなく、黒いカーテンで閉め切られた体育館に連れていかれた
- ⑤手をまっすぐ上にあげての手拍子、長時間の正座で痺れている足に堪える立て! 座れ! の掛け声、今の時代ならしごきや体罰だ!!と言われてしまう内容だった
- ⑥入学後の対面式? で生徒会長から「おまんこ〜はまだ真の一高生じゃねえ」と言われてびっくりしたが、3日間の応援練習を耐え抜くことで真の一高生になるらしい……
- ⑦子供が一高に入学し、校歌と応援歌を教えてあげた時、すらすらと歌える自分に驚いた。

一高祭

- ④ティーンズ雑誌のLemonの全国学園祭情報という記事に一高祭の日程が掲載されてびっくりした
- ⑤体育祭の男子の棒倒しは闘志あふれる大乱闘、クラス対抗格闘技大会のようだった
- ⑥一高祭を締めくくる最大のイベントであるファイヤーストーム。部室の屋根の上から弓道部の部長が放つ火のついた矢で点火をするのだが、何とも粋な演出だと思う。
- ⑦ファイヤーストームでのフォークダンス、大好きなあの子と手をつなげたのが懐かしい
- ⑧美術部の渾身の作であった入場門(アーチ)は素晴らしかった
- ⑨一高祭後の打ち上げをよく「いっせんじょうき」でやっていた、S先生に見つかって冷や汗をかいた
- ⑩一高祭のパンフレットにある注意事項
- ★下校時間は、絶対にお守りください……ファイヤーストームで最高潮に盛り上がっている教室へ早く帰るように注意に行った一高祭実行委員と生徒会役員、気持ち分かるだけに辛い仕事だった
- ★バイクの乗り入れは禁止します……えっ?? 過去に何かあったの?? と思った 会場案内図にまで注意書きされてる……



日新ホール

- ① 利用するのはほぼ男子、意を決して女子生徒もグループを作り行ってみたが、男子からの冷たい視線に耐えられず1回しか利用できなかった。
- ② カツ丼という名の「ハムカツ丼」が飯の上にキャベツ、その上にハムカツが乗っているのだが、たまに薄い豚肉で作ったカツの時もあり、その日はラッキーだと思った。
- ③ 日新のメニューといえば「チキンライス」と「カレーライス」のお肉は少なめだったけれど、お腹は満たされコスパは最高だった。
- ④ 女子はアイスクリームを買いに行った、よく食べたのが7色の「レインボーアイス」懐かしい・・・
- ⑤ ラーメンの上にカレーをトッピングする事も出来たらしい(カレーラーメン)

研修旅行

- ① 一高の研修旅行は春に京都・奈良へ行くのが恒例。春に京都・奈良へ研修旅行に行くのは中学が多らしく、あるクラスのバスガイドさんには「ようこそ甲府第一中学校の皆さん!」と挨拶されたとか・・・
- ② あるクラスのバスの移動中に車酔いした0君のためにバスが停車したのだが、後で分かった話で、どうやらビールを飲みすぎて気分が悪くなったらしい・・・



球技大会

- ① 種目数が多かった。夏は3日間で7種目、冬が4日間で6種目を行っていた、そのため1人3～4種目もエントリーし、1日に数試合をこなさなければならぬという超ハードスケジュールの球技大会だった。
- ② 男子のバスケットボールは特に激しかったが、女子のバスケットボールも罵声や体当たり、試合後には引掻き傷が出来ていたり、とても男子には見られるものではなかった・・・



スキー教室

- ① ローカルな霧ヶ峰スキー場での1泊2日のスキー教室
- ② ほとんどの生徒が初めてのスキー、2日間でなんとか滑れるようになり楽しい体験だった。
- ③ ちょっとイケメンに見えたインストラクターのお兄さん、最後にサングラスを取って～とお願いし、照れながら取ってくれたのだが、「ん～」という女子の微妙なリアクションにショックを受けていた。ごめんなさい!
- ④ ゲレンデで中村あゆみの「翼の折れたエンジェル」が繰り返し流れていた
- ⑤ 手作りのゼッケンがダサかった・・・
- ⑥ おそろいのジャージがダサかった
- ⑦ ゲレンデの目の前の宿泊した民宿がものすごくぼろかったのを覚えている





担任：渡辺 明 先生

3
組



担任：村上 信 先生

4
組



5
組

担任：櫻田 邦人 先生



6
組

担任：高瀬 孝人 先生



担任：浅川 保 先生

7
組



担任：篠原 昭治 先生

8
組



懐かしい日々

一組担任 橘田 多喜夫 先生

第一四〇周年同窓会総会開催、誠におめでとうございます。昭和六三年卒業の幹事の皆さんご苦労様です。

早いもので、私は定年退職後、五年が過ぎました。現在、山梨県高等学校教職員互助会という、高校の先生方の福利厚生事業を行う団体に勤めています。仕事上、退職した先生方と顔を合わせる機会も多く、当時一緒にいた先生方とは甲府一高の話に花が咲き、懐かしく思っています。

私は、一度は母校甲府一高に勤めたいと思っていました。そして希望が叶い、吉田高校から異動して、昭和六一年度から十年間、甲府一高に勤務しました。

私の高校時代のままの本館、日新ホール、運動部の部室。特に風格ある本館は、生徒として三年間のうちの二年間を過ごしたこともあり、教壇に立つて授業をしてい

る時も、昔の雰囲気思い出したものです。

甲府一高に来て最初が、二年生の皆さんの理系男子クラスの担任でした。私も理系クラスでしたので、自分の高校時代を思い出して親しみを感じ、はりきっていました。

しかし、目まぐるしい一年間でした。二年理系男子クラス。四月に初めてクラスの皆さんと顔を合わせ、五月には奈良・京都への研修旅行。また、この年は「かいじ国体」開催の年でもありました。運動部の生徒は競技補助員として活躍し、他の多くの皆さんは開会式マステームの練習でした。その間、私の男子クラスでは、元気が余って幾つか問題も起こし、担任としてハラハラのし通しでした。しかし、そこはしっかりしたもの、で、三年生ともなると、それぞれに進路実現に向けて勉学に励み、

各自の夢を実現していきました。本当にほっとしました。

私は高校時代、ハンドボール部に入っていました。ですから、母校でハンドボール部の顧問として後輩を指導できることが、大変うれしかったです。部活動の中で自分の頃をよく思い出していました。私たちの時代は、部活動といっても専門に指導できる先生も少なく、ハンドボール部も素人顧問の先生でした。練習内容も自分達で考えて毎日の練習に取り組みしていました。異動してみると、多くの部に専門の指導者がいて、どの部も熱心にレベルの高い練習に取り組んでいることに驚きました。しかし、自由がきき、思い通りの部活動ができた私たちの頃の方が、のどかで良かったような気がします。

今、皆さんは、地域で、職場で、責任ある立場で活躍中のことと思

います。

こんな言葉があります。「伝統は、卒業してから創るもの」

伝統とは、皆さんが在学中、部活動や学業に努力した結果として、長い年月を経て学校が評価され、形作られるものです。しかしそれだけではないのです。甲府一高を卒業した皆さんが、社会の様々な分野で活躍することによって評価を受け、それによって母校が評価されるという面が多分にあります。卒業生がどのような活躍をするかによって学校の伝統が創られるわけです。

皆さんの社会での活躍は、まず第一に自分のため、そして甲府一高のためでもあるのです。

皆さんが今後、健康でますます発展し、大いに活躍されることを祈っております。



あの頃のこと

二組担任 長坂 進 先生

原稿の依頼の電話をいただいて、懐かしくなって卒業アルバムを出した。一高の卒業アルバムは三冊持っているが、その中で一番古いアルバムだ。

私が市外の高校（今では統廃合によりなくなってしまうが）から一高に異動になって、初めて担任をした学年だった。市外の高校は私の教員としての初任校で、ほとんどが男子（当時三年生に女子が三名いたが、卒業すれば男子校になる）だったから、教員も生徒も荒っぽいといえど荒っぽい気風があった。生徒の全てを名字でなく、名前で呼び捨てにし、自分も生徒からあだ名で呼ばれていて、良く言えば友達のような、仲間のような関係だった。そんな中で、教員とは何ぞや、などと悩んだこともしばしばだった。今では「体罰」と言われそうな指導もした。結婚してからの、三十歳そこそこの、まだまだ未熟な教員だった。

だから新任校が一高だと聞いて、真っ先に思ったのは、伝統ある進学校の甲府第一高等学校で、国語をどう教えるか、という仕事本来の重要性よりも、「女子がいる、どう呼ぶべきか。呼び捨てにするのか、さんをつけるのか」という、誠に

枝葉末節で個人的な、今思えば全くどうでもいいことだったのだ。そんなことを、異動するまでの一時期、真剣に考えたものだ。

そんな訳で、女子に対しては何か一種身構えて、一高に赴任したのは確かである。

こんな記憶がある。今、この原稿を書いているのは、一月末（他の先生方には申し訳ないが、事情があつて締め切りを延長していただいた）だが、もうすぐバレンタインデーだ。最近では義理チョコといふのは流行らないらしいが、一高に来て、バレンタインのチョココレートというのを初めてもらった。中にはひと書きき添えてあるものもあった。三十五年も前のことだ。当時まだバレンタインデーなどというものは全国的にもそれほど広まっていなかったと思う。私自身もそれがどのような日で、義理であれ、本命であれ、チョココレートがどういう意味を持つのか、などということには全く無関心だった。むしろ、学校へチョココレートを持ってきて、それをやりとりするなどということは不謹慎ではないか、とさえ思っていた。

当然、ホワイトデーなどという日があることなど、思ってもいなかった。だから、ホワイトデーに、誰にも、何も返さなかった。結局、お返しをする機会を失ってしまった。

それがチョココレートをくれた生徒ばかりでなく、多くの女子の響きを買った（多分）。チョコをくれた生徒は、卒業までほとんど口をきいてくれなかった（と思う）。廊下ですれ違う女子の眼つきがやけにきつい。

今だったら三倍ぐらいにして、お返しをするだろう。だが、当時の私の認識はその程度のものであったのだ。青春時代の、楽しいはずだった高校生活の一コマを、暗く、惨めなものにしてしまった責任は大きい。今はあの時のことを心から反省している。本当に申し訳ありませんでした。こんな個人的なことを書くのはどうかと思うが、お許しいただきたい。私にはそんな苦い思い出のある学年でもあったのだ。

ところで、三年生では二組（理系）のクラス担任だった。私の教科は国語だから、授業時数の多い文系クラスの担任になるのが一般的だが、理系は男子が多い。その

点ではやりやすかった。女子は看護系に進んだ生徒が多かった。進学者が多かったのも、大学の戴帽式に出席させていたことでもある。長女が生まれて、クラスから、子供が乗れそうな、大きなアヒル（？）のぬいぐるみをいただくというサプライズもあった。ある日、SHRで教室に入ったら、教卓の上にそれがでんと鎮座していた。娘のお気に入り、かなり大きなぬいぐるみで、そのぬいぐるみで遊んでいたものだ。紙数がない。

皆さんと一高での三年間を共にさせていただいた訳だが、今思えば、先生方にも多くの迷惑をかけた。だが、曲がりなりにも三年間を過ごすことができたのは、私の自慢の一つでもある。なぜ自慢か。またそれを書き始めれば、長くなってしまふので、そのことはいずれまた。その後、二つの学年を卒業させ、一高の後、甲府南高→甲府西高（高文連）→県庁→ろう学校と勤務させていただいた。失敗も多かったが、自分のやりたいように思い切り仕事ができ、のは、担任をしていた一高時代だったのかな、と思う今日この頃である。ありがとうございました。



雑 感

三組担任 渡辺 明 先生

創立一四〇周年甲府中学・甲府一高同窓会総会の開催誠におめでとうございます。幹事の六三年卒の皆さんご苦勞様です。ご成功を祈念しております。

私が一高に赴任したのは昭和五四年、四〇年余り前です。古色蒼然とした旧本館は、東大の安田講堂を模したとも、中世から近世初頭に流行したゴシック建築に似ているともいわれていました。その本館の中に入ると、昔懐かし油の匂いが漂ってきました。母校の教壇に立てる喜びと不安とが交錯する中「ようこそ一高においで下さいました」と温かく迎えてくださった先生方に感動したことが、昨日のように思い出されます。気持ちが一高と軽くなり「頑張らなければ」と決意を新たにしました。立派な先生方や生徒に恵まれ、教員生活の中で最も充実した一一年間を過ごさせていただきました。

退職して一八年目に入りました。家庭菜園にしては広い畑で雑草と闘いながら野菜や果物を栽培しています。毎年同じようにやっているのですが、収穫は天気次第です。月数回のゴルフコンペもあり天気予報には敏感になりました。こうして依頼された記念誌の原稿を書いていると、皆さんと過ごした日々の出来事が懐かしく蘇ってきます。五年振り受け持った一年生は明るく個性的な生徒たちでした。一年生の時は、質問の列ができた車山での宿泊学習やスキー教室がありました。二年生の時は、なんといっても研修旅行です。昼食に二五〇〇円もする高価な湯豆腐を食べた班もありました。戸惑いや失敗もあり、班行動は楽しい思い出として残っているでしょう。三年生になると目標とする大学を目指して一段と勉強に精進する日々でした。その成果は着実に現れていました。あれは外部模試が終わった後(六・七月頃)都立高校に勤務していた大学の同級生から突然電話がありました。彼曰く「一年生の時は、うちの学校と甲府一高とでは成績の差は余りないのに、三年生に

なると大きな差が出るが、何か特別な指導をしているのか」という内容でした。勉強に特効薬などありません。また卒業時には、某教頭先生から「沢山合格しましたね」と褒めていただきました。担任の心配は杞憂に過ぎませんでした。

ここ数年、六三年卒の有志が開いている同窓会に招いてくれます。各自が各々の分野で活躍している様子を見聞きし、立派に成長した姿に感無量です。平成の時代はバブルが崩壊しリーマン・ショックがありました。大変な経験をした人もいます。今また、世界経済は各国の金融緩和でバブルの様相を呈し、リーマン・ショックの再来がさやかれています。その様な事態の到来を回避すべく強力な政策の遂行を政府には期待したいものです。

今年は東京オリンピックの年です。総務省はこの五輪での実現を目指して五Gこと第五世代移動通信システムの活用を進めています。五Gの特長は超高速・超低遅延・同時多数接続を可能にします。自

動運転や医療技術、IoTなどあらゆる分野に接続可能で社会生活は一変するといわれています。日本の産業は八〇年代後半、重厚長大から軽薄短小の時代へとシフトし大量生産・大量消費すなわち「使い捨て」が当たり前になり「もったいない」「精神は次第に薄れていきました。また、九〇年代後半のIT革命によりインターネットが急速に世界に広がり、瞬時に双方向で大量の情報交換が可能になりました。身近のところでは、ネットショッピングの普及など急激に社会は変化し、多様な価値を生み出しています。五G時代は日本人の価値観にどのような変化をもたらすのか興味深いものがあります。日本では五Gの事業化が進められています。世界は既に次世代通信六Gの開発を目指しています。「日に新た また日に新た」一四〇周年の記念すべき年が、自主・自立・自律そしてリベラルな校風を残しつつも次世代の伝統創造への礎とならんことを願ってやみません。



生徒と私と「強行遠足」

四組担任 村上 信 先生

わたしは昭和五八年四月に母校の甲府一高に赴任しました。年齢は三八歳で、何とか一人前の教師として教壇に立つ自信が持てるようになった頃でした。早速一年生の担任を任せられ、今思えばちょっと恥ずかしいくらいにやる気満々の成年教師でした。

ところで、もしわたしが甲府一高に勤務することができたなら前から考えていたことがありました。それは伝統行事の「強行遠足」について、担任するクラスの男子生徒全員を最終到着地点の小諸に制限時間内に無事に到着させることでした。甲府一高強行遠足の良いところのひとつは、自分の体力と気力に応じて目標を設定し、その目標を達成するために全力を尽くすことであり、その結果が例え目標を達成することができなくても、何ら保健体育の授業の評価には影響しないというものでした。生徒たちはまさに自分のペースでの行事に参加できるのです。このことは、例えば、現在も変わらない校庭の出発風景にかいま見ることが出来ます。校長の号令を合図に、大きな決意を秘めて走り出す者、二、三人で和やかに談笑しながら歩き出す者などさまざまで、生徒たちがそれぞれ設定した目標に向かって出発していく様子のなかに「強行遠足」が明治・大正・昭和・平成と時代を超えて繋がれてきた一つの理由があります。このような「強行遠足」の持つ意義を重々承知した上で、わたしは生徒たちを無理をしても「小諸」

に到達させようと計画しました。もちろん「白田」も「中込」も目標として、それを達成できればそれはそれで意義があります。しかし、一〇〇軒越えを走破して「小諸」に到達してこそ大きな意義があると思われまふ。当時の三年四組は、若干の移動はありましたが概ね二年からの持ち上がりクラスの、男子生徒全員が制限時間内に小諸に到着できる可能性がありました。二年次到着できなかった生徒を余裕のあった生徒が励ましながら「小諸」まで伴走することなども一案でした。そうは云っても一〇〇軒を超える距離のことです。簡単ではありませぬ。共倒れの恐れもあります。しかし、二人とも「小諸」に到達できればそこから得られる達成感はないものにも換えられないものとなるはずで、またわたしは「小諸」に到着した生徒に、日進ホール食堂のラーメンを提供すると約束しました。このことは、わたしが本校に赴任して最初に担任した一年生のクラスの男子生徒から始めました。さすがに三年生のクラスになると到着者が増えてきたので、「一番列車に乗車できた生徒（せいぜい）全体の五〇番以内」には日進ホール食堂のラーメン一日食べ放題券の発行を追加しました。これは私の記憶ではクラスで多くて一人か二人です。ところがあるとき、二年生のクラスの女子生徒に「先生、強行遠足は男子の為にあるんですね」と云われハッとしました。確かに、終点の小海は到達距離四二軒越えとマラ

ソン並みで、県内の高校男子の競歩大会の実施距離よりも長いことなど女子生徒にも気を使つてはいましたが、男子の一〇〇軒越えとは比べようありません。それでもわたしは、「小海」到着一〇番以内の生徒に、日進ホール食堂一日食べ放題券を発行しました。なんと三年四組の女子生徒が一〇番以内に入り一日食べ放題券を手に入れました。強行遠足が終了して二、三日したとき日進ホールの丸山さんから「数人の女子生徒が好きなように注文しているよ」と電話がありました。まさか友達を連れて来ることは想定外で、やられたと思いますでしたがそれも今思えば懐かしい思い出です。

ところで、わたしがこれほど「小諸」にこだわったのは、昨日のこのように覚えている六〇年前の私自身の強行遠足の体験があるからなのです。

わたしは、昭和三五年四月に一高に入学しました。強行遠足については、部活の先輩などからおおよそのことは聞いていました。毎日部活をして鍛えているので、一二〇軒先の「松本」までは何とか到着できるだろうと軽く考えていました。

さて、第三五回強行遠足は予定どおり一〇月二八日に二四時間以内に行けるところまで行くというルールで実施されました。私は鞋を履き、学生服に白ズボンと今と変わらない服装におにぎり二つを肩にかけて校門を元氣良く飛び出しました。走れるところはできるだけ走ろうと

決めて上諏訪、岡谷、辰野と過ぎるうちにいつの間にか一人ぼっちになってしまいました。電灯もなく真つ暗な「うとう峠」には参りました。寒さと眠気でうずくまっていたところ、後から来たバスケット部の先輩たちが拾ってくれました。塩尻検印所と彼等と別れ、休んでいた同じクラスのサッカー部の友人と二人で夜明けを待つて松本を目指しました。塩尻から松本までの一二軒は地獄の苦しみでした。私たち二人の進む姿がよほど滑稽だったのでしょう、長野県の登校途中の自転車通学の生徒達が笑いながら激励してくれました。国道一九号の冷たいコンクリート道路に座り込むたびにどちらかが相手を引つ張り上げ二人でよれよれになりながら進みました。道路わきの「松本まで一二軒」の看板には何度期待を裏切られたことでしょう。やっと松本検印所の幟旗が見えたときには二人とも思わず抱き合つて泣いてしまいました。六〇年経った今でもこの時の感激を忘れることはありません。わたし一人では決して松本には到着できなかったと思います。

辛いこと、苦しいことがあっても、わたしはあのときの強行遠足で一二〇軒先の松本まで行ったことを思い出し克服することができました。時が過ぎ、コースが変わろうとも、甲府一高強行遠足は参加した全ての生徒それぞれに意義を与えながら存続して行つて欲しいと願います。



あの頃のこと、 そして今のこと

五組担任 櫻田 邦人 先生

創立一四〇周年の同窓会総会の開催、誠にありがとうございます。また、昭和六三年卒業生の皆さん、当番幹事の大役ご苦労様です。総会の成功を祈念いたします。

総会記念誌への寄稿依頼の電話を頂いて、皆さんの歳を数えてみたりしました。皆それなりのいい歳になっていました。今はそれぞれの場で頑張って活動されていることと拝察します。

さて当時、私は遠隔地校勤務を終えたところで、赴任先が甲府一高だと知った時は、伝統ある学校に勤める事が出来る光栄と又不安、共に入り交じっていささか緊張していました。さらにいきなり三年生の担任ということでもありました。しかしそこは一高の力、又風土とでも言いましょうか、天野学年主任を始め、おおかで懐の深い学年の先生方に迎えられて、すぐに学校の一員となることが出来ました。感謝です。

生徒の皆さんとはたった一年だけの付き合いでしたが、今アルバムを見ながら思い出すのは、皆さんが純

粋で大人で、周囲に対して非常に友好的であったという事です。たった一年目の私にも早速「サンキュウ」という愛称を授けてくれました。こうした開放的な雰囲気の中で皆さんの進路を共に考える事が出来たことは、今もって嬉しいことです。校舎改築の動きもそろそろ始まる中で、その最後の教室で皆さんと時を共に過ごすことが出来ました。長い伝統を特に強く感じる時期であったと思います。

さてもう一つ、部活動では、本当に偶然でありましたが水泳に携わりました。高校の水泳部とは言え、当時すでに各校の活動の拠点はスイミングスクールに移る中で、一高の練習はまだ学校のプールが主でした。

そしてプールサイドで「頑張れ」と叫びながらも、顧問の私は金槌だったのです。それでも部員はよく練習に励んで、関東大会出場はごく当り前のことで、インターハイ出場で北海道までも行ったのです。自分もいつかこんなに泳ぎたい、泳げるようになりたい、そう強烈に思うようになり

てくれたのがこの経験です。そしてこの思いは、退職して実現しました。今当時は思い起こす時、私はあの一高のプールで長い距離を生徒と一緒に泳いでいるのです。

さて六年間の勤務を終えて転出しました。その後、四校の勤務を経て、今は退職して一年目になります。

ここからは全くの私ごとで恐縮ですが、町役場から要請のあったいくつかの業務や会議等に関わってきました。中でも難しかったのが学校の統合問題でした。我が町の中学校が一校に統合されるというものです。今までも統合を重ねて残った三校が一校になるのです。統合準備委員会は議会の統合決定を経て設置されたものですが、一部にはまだ統合検討委員会の様相を呈していました。無理もありません。参加している多くの委員が母校をなくしてしまうのです。それでも担当の町教委の誠意ある対応と努力があつて会議は少しずつ前進し、やっと校名が決まり、校歌・校旗を制定してカリキュラムも整えたのでした。教室に溢れんばか

りにいた団塊の世代と呼ばれる私たちがこのような会議に関わることは、時代の巡り合わせとは言え、余計に寂しく、また複雑な思いをしたところでした。

さて話は全く変わりますが、減少していく人間に代わって、今増えているのが野生の鳥獣です。特に、猪、鹿、猿です。農産物に与える被害は、食害として頻繁に新聞でも報道されていますが、我が町も例外ではありません。特産の「曙大豆」は葉を鹿に食べられ、茎だけになってしまします。猿に襲われた畑は野菜が全滅です。そこで私はハンターになったのです。昔流に言えば猟師です。農家の味方などと言う格好のいい話ではなく、以前から関心があつた領域なのです。これだけ身近に被害があるなら、一石二鳥という事で始めることになりました。猟は危険を伴いますが、安全を第一に、そして責任を持って動物と対峙していくつもりです。現役時代には思いも寄らなかった今ですが、健康なればこそと考え楽しんでいきます。



わが心の一高

六組担任 高瀬 孝人 先生

第140回甲府中学・甲府一高同窓会が盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

今年度は、昭和63年度卒業生が当番幹事としてご尽力されることを知り、一言、激励と感謝の気持ちを述べさせていただきます。

通知を受けて、早速、アルバムを繙くと、当時の懐かしい顔ぶれが鮮やかに蘇り、30年前の様子が彷彿と脳裏に想い浮かんできました。ハイティーンの純粋で、一途な若者たちが、今は50歳近くの壮年としてどんな人生を送っているのだろう、また、どんな立場で、どんな理想に燃えて活躍しているのだろう、と、止めどない想像に駆られました。

定年退職してから、早くも十年の歳月が過ぎ去り、最近では甲府一高の様子もとかく不案内になりました。折、新聞やテレビ等でニュースに触れると、急に懐かしさがこみ上げ、目を見張ってしま

います。やはり「甲府一高」という

名前は、私自身が同窓生でもあるためか、体や心の一部として血肉化していて、切っても切れない関係であることを思い知らされます。中でも、「強行遠足」は何と言っても伝統の「華」であり、同窓生をつなぐ最も強い絆であることは言を俟ちません。毎年、報道に接するたびに胸が高鳴るのを禁じえません。私自身の在校生当時に振り返ってみても、真っ先に記憶に蘇ってくるのは、3度の強行遠足です。まさに「自己の限界に挑む」体験として何ものにも替えがたく、実に得がたい宝となりました。直前に行われた一万メートル競歩も忘れがたい行事の一つです。そこには「質実剛健」を重んじる校風や、体育館の壁面に掲げられた「MENS SANA IN CORPORE SANO」

ているのを感じます。

現在、私は、県内の大学で英語を教えておりますが、学生たちには必ず「一高魂」とも言うべき「少年よ、大志を抱け」を紹介し、W.S. クラーク博士の以下のような原文と共に、その高遠かつ深奥な伝統精神を唱導しています。

“Boys, be ambitious! Be ambitious not for money or for selfish aggrandizement. Not for that evanescent thing that men call fame. But be ambitious for the attainment of all that a man ought to be.”

ここに秘められた格調の高い、蘊蓄に富む教訓は、前途洋々たる

青年たちに夢と希望を与え、勇気と進取の気風を吹き込む威力があるものと信じます。

併せて、我々が誇るべき大先輩、石橋湛山氏の揮毫による「Be Gentleman!」というクラーク博士の言葉も、本校の大事な秘宝として光彩を放っています。品格、礼儀、学徳を重んじる西洋風の「紳士道」を標榜するもう一つの「二高精神」も絶やすことなく受け継がれてゆくことを念じております。

私自身も、これらの言葉を自戒の杖として、限られた余生を前向きに、夢と理想を追いながら、「日に新た」に、歩み続けてゆきたいと思えます。

終わりに、甲府一高のますますの発展と、同窓会の末永い隆盛、ならびに当番幹事の皆様のご多幸を祈念して、本同窓会に寄せる言葉とさせていただきます。

広告目次

あ

(株) RKジュエリー	91
(株) アイ・テック	77
(有) アイエス企画	25
(有) 相原商事	111
(株) E i n s M o t o r s	97
(有) アウテリアあかざわ	49
アウトブラン (株) グランドスラム甲府	60
(有) 青沼家具	95
(有) 赤池鉄筋工業所	47
赤岡綜合薬局	105
アカオライフプロジェクト(株)	112
(株) アカシヤ	110
秋山脳外科	81
アクアクララ	88
(株) アクティオ	64
(有) アクティブ丸井	111
あさかわレディースクリニック	102
芦沢整形外科医院	87
(株) アシストエンジニアリング	100
味魅	88
(株) アダストサービス	89
(株) アドヴォネクスト	67
(株) アドステーション	70
(株) 網倉本店	102
(株) 雨宮	82

(医) 松田会 荒川外科肛門医院	33
A L L U R E (アリュール)	113
レストランバー アルフィー	94
アルプス事務機(有)	35
(株) 安藤製作所	28
(有) アンリミット・ジャパン	62
い	
飯島食品(株)	99
飯田鉄工(株)	58
(株) いえプロ	104
石和生コン(株)	109
(有) イシイ石油	104
石川商店	86
石川法律事務所	103
(株) 石黒工務店	52
(株) 石友	3
石のもちづき(株)	30
石山耳鼻咽喉科クリニック	98
磯部公認会計士税理士事務所	73
(株) 板山松竹堂	112
イタリアンレストラン&バーるびい	93
一宮浅間神社	106
いっぷく堂薬局	100
(有) イデアn a t o r i	112
糸柳	61
稲積神社	88
井上鋼材(株)	87
今村耳鼻咽喉科めまい・難聴クリニック	113
今村紙業(株)	110
岩下クリーニング店	42

(有) 岩間電気工業	109
イングリッシュプラス(株)	102
(有) インシュランス相和	112
(有) インテリアさいき	112
(株) イントランス	86
う	
(株) V e n t (ヴァン) 計画設計室	109
ウェルネスクリニック	29
牛倉神社	112
内田皮ふ科	78
(株) ウッド プロ ジン	76
え	
(株) 栄和交通	66
(株) A O B 慧央グループ	49
A プラス設計	85
えがお屋	111
(有) 駅前サービス	92
(株) エコ・フカサワ	23
S M B C 日興証券(株)	51
(株) エスコ	103
(株) エヌディエス	90
(株) エフエム富士	107
F・ファクトリー	111
江間歯科医院	92
エルテックサービス(株)	163
円崎興業(有)	47
エンゼル動物病院	82
(有) エンドウ工務店	105
円明寺	42

お	
(株) オービット	68
(株) オーエムシー	31
(株) オオキ	83
大久保鉄工(株)	96
大久保内科呼吸器科クリニック	76
(株) O Z K	113
大原簿記情報ビジネス医療福祉保育専門学校甲府校	106
(株) オービックビジネスコンサルタント	76
(有) オオモリ	80
大森歯科医院	94
(有) 大森新聞販売所	17
(株) 小笠原商会	91
小川歯科医院	89
(株) オギノ	4
オギノ食糧(株)	110
(有) 荻原組	102
(有) 奥野旗店	20
小倉税務会計事務所	106
(株) オサダ	46
長田組土木(株)	21
長田産婦人科クリニック	80
(株) 長田不動産管理	108
小沢耳鼻咽喉科アレルギー科クリニック	88
(株) オズ・プリンティング	56
おそうじや本舗甲府営業所	111
(株) 乙黒	86
(株) 小野石材店	22
小室浅間神社	107

41 第140周年 甲府中学・甲府一高同窓会記念誌

(有)コバヤシビデオ	26	サン建機リース(株)	105	清水工機(株)	92	Think Park 皮膚科クリニック	62
五萬円館	93	サンコー電化	111	(有)シミズ酒販	75	新星電機(株)	79
五味皮フ科医院	102	サンタジャパン(株)	50	シミックホールディングス(株)	63	新藤歯科医院	99
小宮山音楽教室	104	(株)サンテック	55	(医)交道会 しもべ病院	79	(株)新和運輸	95
(医)小宮山会 小宮山外科医院	95	山日YBSグループ	表 2	シモン	103	す	
コラニー(株)	81	(株)サンポー	97	ジャストインターナショナル	111	(有)水質メンテナンスアーク	12
(株)KONDO	113	三友自動車工業(有)	102	(株)シャトレーゼ	71	(有)スーパ―太陽	112
(株)コンピュータマインド	62	サンライズ(株)	91	(有)ジャパンアートメモリー	89	須貝整形外科医院	91
さ		(株)三和リース	81	(株)ジャパンメディカル	108	すが建設	98
(株)齊木煙火本店	103	し		Sh a r r 暖	98	(株)杉本新聞店	113
(有)サイコージェムス	78	(株)シーティーエス甲府支店	91	(株)シャルム	100	(医)すずき会鈴木・野村泌尿器科クリニック	93
サイトー・オート・サービス	109	(株)ジーベック	32	十五所神社	85	理容スズキ	112
さいとうクリニック	98	(株)JMK MARUFUKU	95	(株)ジュエリープランニング	111	(学)鈴木学園富士幼稚園	99
(株)三枝組	105	(有)ジェムスワールド	73	(株)ジュエル・ワタナベ	91	鈴木歯科医院	102
境川カントリー倶楽部	表 4	(株)シオザワ	93	J U T A	92	鈴木製菓(株)	37
酒折宮	95	塩島会計事務所	106	順聖クリニック	90	鈴健興業(株)	100
(株)坂本建運	72	シオジマ歯科医院	92	(株)S H O E I	96	スリーエスオート	97
桜こどもクリニック	93	歯科若尾	92	(株)少國民社	26	S l o w l i f e	99
櫻林 腎・内科クリニック	78	敷島金属工業(株)	109	城西ハウジング(株)	79	せ	
(有)ささこん	90	しくみ(株)	86	(株)正直堂	79	(学)聖愛幼稚園	106
笹本環境オフィス(株)	89	寿司・割烹 治作鮨	79	昇仙峡カントリークラブ	113	正視堂眼鏡店	107
(有)ササモトスタジオ	105	曹洞宗天真山自性院	165	(株)浄土の里	85	(有)清隆社	110
佐藤恵美	112	システム・アルファ(株)	68	湘南興業(有)	57	積水ハウス(株)	36
(株)サニート	109	(株)システムインナカゴミ	92	昭和総合警備保障(株)	46	關野税務会計事務所	106
佐野工建(株)	105	(有)篠原電研	78	昭和田中歯科医院	92	關野法律事務所	106
(株)澤田屋本店	98	篠原貿易(株)	91	(株)昭和鉄工	72	セキュリティロード	109
さわ淵	72	嶋崎耳鼻咽喉科医院	80	白須測量調査事務所	106	セコム山梨(株)	91
(株)三愛印刷	87	清水行政事務所	87	(株)白根アルミ	94	セブンイレブン甲府伊勢1丁目店	59
(株)サンキムラヤ	63	清水建設(株)関東支店山梨営業所	60	(株)白根ベニヤ	100	セリエドレッシング	101
(有)三協石産	88	(株)清水建材	98	新海司法書士事務所	95	Z E N 建築研究室	104

(有)千秋舎	108	タカスタンダード(株)甲府支店	98	(株)津々美造園	93	な	88
(株)センチス21	93	滝田建材(株)	74	露木耳鼻咽喉科医院	101	(株)内外	100
そ		(医)武川会	58	鶴田電気(株)	89	(株)内藤歯科医院	24
(有)創研	69	宅建社	102	(株)鶴田不動産鑑定	99	(株)内藤ハウス	92
創建アシスト	72	(株)タクミトヨー住器	102	ツルヤ化成工業(株)	101	なおはる	104
相互タクシー(株)	90	(医)悠紀会 武井医院	77	て	99	中川光洋	104
創造秋山	110	(株)武田広告社	167	ディアハート	45	(有)中川看板店	51
総務サポート社労士事務所	64	武田神社	19	(株)ディアラスター	101	ナカキンリース(株)甲府営業所	48
た		竹野総合事務所	94	てっばん 秀	97	(株)中込宝飾	56
ダイアナ フォーレ	89	(株)ダスラップサービス	80	(株)テレビ山梨	101	中澤経理事務所	94
第一観光(株)	99	(株)タダノ	104	テンアベレージ	76	なかざわ歯科医院	106
第一防災設備工業(株)	79	(有)立建	95	(株)テニヨ武田	107	中沢実業	80
太冠酒造(株)	98	たちばな工房	101	と	80	なかざわ耳鼻咽喉科クリニック	108
大新工業(株)	77	(株)タナアミスボーツ	113	(株)東栄	94	(株)中嶋文夫プラスチック・エイ設計事務所	85
(株)大成電気	93	(株)タナカ宝石	91	東京鮎	81	(有)中日本測量	106
(株)ダイタ	63	(医)アウゲン 田辺眼科	70	東京ガス山梨(株)	2	(株)中村	87
(有)ダイナ	99	(株)たまパッケージ	113	東京地方税理士会・甲府支部 日新会	103	(株)中村建設	96
(株)大日マクリーン	57	THALLIA	81	東八商事(有)	107	なかむら内科クリニック	87
(株)大丸金属	46	(株)タンザワ	3	(株)東邦観光サービス	103	なかむら保育園	96
(有)ダイメックス	110	ち		(株)東和	61	(株)中家製作所	89
(株)ダイヤ商事	57	チェルト	103	常磐ホテル	71	(有)名取通商	56
太陽建機レンタル(株)荻崎支店	100	千野建材(株)	99	(独)国際協力機構(JICA ジャイカ)	61	(株)ナビタイムジャパン	168
太陽建機レンタル	52	(株)CHAYA マクロビフーズ	86	富竹歯科医院	91	七沢歯科医院	97
(株)太陽設計	105	チャンス	100	B ar 朋	71	201ゴルフ会(S56〜63年卒)	70
泰和電気工業(株)	54	(株)中央車輦販売	95	トヨタホームふじ(株)	106	(株)西井電設	103
ダウンタウン貢川	35	中央ベニヤ(株)	96	(株)トヨタレンタリース山梨	89	(株)ニシノ建設管理	96
(株)タカギ	84	(株)中央レミコン	109	とんかつ とん甲	92	西山塗装(株)	27
(株)高添工業所	76	きもの処 丁子	99	とんかつ 直治朗(有)サンライズ	18	(株)ニチカ	38
(株)高野塗装店	99	辻・本郷税理士法人 甲府中央事務所	73	茶房 どんぐり	92		

(株)日建	48	初鹿会計事務所	112	フォネットグループ	64	ほ	36
(株)日工建設	83	花形歯科医院	89	福島整骨院(心音)	99	(株)メモリアルハート「法事の窓口」	91
日章(株)	111	話し方教室スピーチ・スピーチ	104	富国生命保険(相)	22	ポーラ甲斐店	90
(有)日昇印相協会	93	HANATOSH	108	ふじいけ	87	(株)保険クライム	97
日新トラベルサービス(株)	88	ばば歯科医院	113	(株)富士エンジニアリング	84	(株)保険ドリム	90
日成ビルド工業(株)	103	(株)馬場設計	107	富士急行(株)	66	(有)ポコジャン キングダムキッズ	90
新田石材店	108	疾測量(株)	105	(株)フジコ	113	保坂歯科医院	104
日東物産(株)	98	(株)早野組	9	富士山小御嶽神社	69	保阪歯科医院	110
二宮公俊(株)ジェム・フォース	11	ひ	45	富士島建設(株)	49	細田眼科医院	80
二宮眼科医院	92	(有)ピアジュエリー	98	(株)富士通マーケティング	69	ほそだクリニック	108
(株)日本審査機構	88	(株)ピオレ	98	藤原整形外科	102	細田工業所	51
(株)日本旅行 甲府支店	109	(医)小宮山会 ひかり眼科医院	101	富士見歯科医院	73	ホソダ不動産(株)	83
日本連合警備(株)	104	樋川工業(株)	109	ふじみ鍼灸接骨院	112	ホテル談露館	111
(株)ニュー平和	75	(株)樋口	14	富士冷暖(株)	76	ホテルニュー芙蓉	110
ね	84	樋口歯科医院	94	豊前医化(株)	65	ホテル平安	46
ネットトヨタ山梨(株)	10	(株)ビジネスサポート	95	双葉クリニック	97	(税)ポライト田中会計	62
ネットトヨタ甲斐(株)	166	ひはらクリニック	74	フルーツパーク富士屋ホテル	103	堀内平嶋法律事務所	101
の	77	(株)ひまわりサポート	59	すなつく ブルガリ	109	ま	95
(株)ノウハウバンク	166	ヒューコムエンジニアリング(株)	29	(株)フラシア	82	マイウェイジム	28
のぞわ耳鼻咽喉科クリニック	75	平野石油(株)	33	PREMIER	87	(株)前田製作所	30
(有)野中製材所	100	廣瀬醫院	49	(株)古屋	97	マコト医科精機(株)	107
野村証券(株)甲府支店	106	(有)ヒロ野草研究所鍼灸院	90	古屋電機(株)	105	(株)マリアージュ(ヴィラ・エステリオ/ファタルーチェ)	68
は	8	ふ	90	古屋法律会計事務所	93	丸十山梨製パン(株)	90
萩原勝公認会計士・税理士事務所	57	(株)ファミリーマート(ケイカンパニー)	90	(株)ブレイメン	96	(株)マルチュ	47
穂原板金	109	(有)ファンテック	92	(株)プログレス	48	(株)マルモ	51
(株)ハギ・ボー	8	フィーネ・ヴァレンテ	100	(株)プロトコーポレーション	97	み	88
(株)はくばく	31	FOX	97	へ	68	(株)三浦製作所	51
畑歯科医院	58	Foot's	86	(株)ベルキャスト	85	御崎神社	96
(株)羽中田自動車工業	109	フォトスタジオキャンパス	86	ベルクラシック甲府	68	(株)三澤工業	104
八光地産グループ	31					三科医院	104

三井クリニク	82	八雲製菓(株)	66	山梨中央青果(株)	77	(株)ラッキー商会	20
三井歯科医院	100	矢崎耳鼻咽喉科医院	101	山梨通運(株)	97	リカーショップながさわ	108
三井住友海上火災保険(株)	108	(株)やさしい手甲府	24	山梨トヨペット(株)	82	陸上部OB S 62 S 63 H元年卒	13
(株)三井住友銀行甲府法人営業所	60	(株)柳川芳鉄工所	99	山梨トヨタ自動車	78	(株)立地企画	53
三塚歯科医院	100	(株)ヤナセ甲府支店	84	山梨日化サービス(株)	87	竜王レディースクリニク	74
(株)緑が丘設備	43	山一窯業(株)	88	山梨日野自動車(株)	73	(株)竜王新聞センターOkada	113
薬袋内科循環器科医院	107	(株)山市成工	73	山梨モーターガス(株)	101	龍王産業(株)	72
(株)湊与グループ(みなよグループ)	71	(株)山形一級建築士事務所	66	山梨ユニフォーム(株)	106	(株)リンクス	104
(株)宮川商店	103	(有)山縣塗装店	110	(公財)山梨YMCA	89	(株)レイコー	47
む		(有)山形屋重工	74	山本基礎工業(株)	32	レコン・ジェム・ジャパン(株)	94
向山塗料(株)	85	(株)山通	106	箭本外科整形外科医院	87	レストランバーSAKI	43
(医)向山クリニック	84	(有)山中商事	107	(株)UG都市建築	59	連合山梨	89
(有)ムネカタ工業	69	山梨アサノコンクリート(株)	105	(株)ユートイーワイ企画	111	(株)れんじやく	96
村松歯科医院	111	山梨OA機器販売(株)	74	ユタカ電機(株)	81	ろ	
め		(福)山梨檜の会	25	湯殿館	38	(株)ロード	75
(株)メイキョー	78	山梨ガーデン(株)	98	(株)ユニオックス	87	(有)ローファム山梨(渡辺守利事務所)	112
メタルシステムなとり	107	(株)山梨県環境科学検査センター	90	(株)ユニセン	58	(株)YSK e.com	61
(有)メディア・アイ・コーポレーション	87	山梨クラリオン(株)	91	(医)八香会 湯村温泉病院	90	(株)ワイ・ジュエリー	87
も		山梨グローブシップ(株)	108	(株)湯村自動車学校	60	若尾会計事務所	98
(株)望月組土木	78	山梨県弁護士会	7	(株)ヨコハマタイヤサービス甲信	55	若尾歯科医院	101
(有)望月建材飯富生コン	88	山梨県民信用組合	88	(医)和州会 吉田医院	83	(株)若尾忠男商店	81
望月耳鼻咽喉科	89	山梨縣護國神社	96	(有)吉田広告社	113	早稲田育英ゼミナール 竜王教室	65
(有)望月自動車工業	53	山梨縣護國神社 桜会	96	吉野聡建築設計室	102	(特非)わたげの会	54
モテギ(株)	64	ヤマシケンソー(株)	72	(株)依田酒店	90	渡辺建設(株)	88
もんでくじゃん甲府西店	95	山梨交通(株)	67	(株)よつば鑑定	44	(株)渡辺工業	48
や		(株)山梨新報社	76	(有)米山カッター	110	渡辺整骨院	105
(株)八木沢興業	15	山梨信用金庫	61	(株)ライフハウスヤマモト	112		
(株)八木沢興業	16	(株)山梨自販	105				
やきとりの名門 秋吉甲府店	111	山梨スズキ販売(株)	53				
焼肉ひろや	101	(株)山梨中央銀行営業本部	50				

第一四〇周年甲府中学・甲府一高同窓会協賛者御芳名

（順不同、敬称略）

和泉産業(株)

一宮温泉病院

(有)井上建装

今井整形外科医院

(有)上野モータース

(有)うし奥商店

(株)岡島

奥藤本店

小澤 誠

(株)甲斐延

カルク

川鉄産業(株)

クーリール ダイアナ

功刀 功

窪田哲也公認会計士事務所

クリーンライフ

(学)慧央健康文化学園

甲府一高昭和51年卒「蒼友会」

(有)酒折運輸

サントリー酒類(株)

(株)島田貴金属店

(株)下部ホテル

(株)情創

(株)末木組

(有)杉山興業

(有)タスクマスター

中央コンクリート工業(株)

(株)中部

東ガス管興(株)

戸栗 敏

富元建機

(株)鳥林

(有)長井工業

中楯建設(株)

野田重雄

羽黒工業(株)

原田鉄筋(株)

ビック建材金物(株)

フジ運輸(株)

(株)富士見電気商会

堀之内社会保険労務士事務所

(有)マルイチ中沢

ミートプラザよだ

(株)みしな食品

三枅建設(株)

(有)矢崎家具店

(有)ヤマナカ産業

山梨自工(有)

(株)理工エンジニアリング

(株)六測

六曜館 成澤秀仁

若駒

第 140 周年甲府中学・甲府一高同窓会

学年協賛者氏名

飯沼正光	【3組】	馬場幸枝	保科浩子	丸山智子	篠原恭子	小林司	横山内徹	山野老正	天川清一	鎌田豊司	市川男	雨宮和	【2組】	渡辺一志	森本光俊	堀之内朋行	古屋功一	早川浩規	芹澤速人	佐野浩史	倉澤公弘	神田佳紀	岩井満政	井上理人	【1組】	一ノ瀬千玄
------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	-----	-----	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------

太田満彦	石川智基	【4組】	松山亜紀子	深沢恵子	平賀貴久子	神保千絵	池田直子	清水美千代	近藤由美	田村麻里	井村敦子	渡邊克久	山本昭彦	望月貴則	星野浩一	藤田川正信	畑川隆新	小池敏伸	菊池秀樹	川崎敏男	河合秀敏	数野健武	加賀美信也	小田切也	小河内幸央	石田浩一	石河浩一
------	------	------	-------	------	-------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	-------	------	-------	------	------

江刺正行	石田利和	【5組】	奥田るり子	平沼公香	作道清恵子	松尾淳子	萩原教子	長坂由美	立花輝枝	栗原真弓	丸山千代子	高添つく枝	鈴木京子	道祖直子	近藤清美	大森淳子	前田恵美子	平田茂雄	山本誠一郎	矢ヶ崎雄三	前嶋宏之	古屋宏	林保宏	野中康格	中井太一	角田篤	折居篤
------	------	------	-------	------	-------	------	------	------	------	------	-------	-------	------	------	------	------	-------	------	-------	-------	------	-----	-----	------	------	-----	-----

渡邊かおり	野中恵美	黒沢明	進藤富美代	保坂公卓	三科孝男	上田和男	高橋淳一	【6組】	保坂由里枝	小澤早苗	飯沼佳代	望月せい子	海老澤志保	中島裕子	堀内三津子	岩谷智恵子	嶋田幸子	伊東純子	山下万里子	山本月歩	山本月陵	望月浩	深澤一	樋口勇人	仲嶋洋樹	清水貴也	長田道也
-------	------	-----	-------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	-------	------	-------	-------	------	------	-------	------	------	-----	-----	------	------	------	------

星野富美子	【8組】	尾崎美智	武川かおる	石川美紀子	青山雅美	望月聡子	廣瀬綾子	関博子	渡邊としえ	加々美美香	神宮ゆかり	山口直美	向山直紀	保坂武也	西田一也	島田政和	數野浩司	乙黒洋仁	岡博治	伊藤賢治	浅川幸夫	青柳良夫	【7組】	原久美子	住かずみ	加賀美幸代子	中西さゆり
-------	------	------	-------	-------	------	------	------	-----	-------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	--------	-------

石原 えいこ
平岡 陽子
新津 正子
神田 ひろみ
コフマン 佐藤恵美
有賀 道子
古屋 和美
長沼 恭子
バディカエス・ピット・ニニ美代
三浦 博子
原 純子
渡邊 薫
渡辺 陽子
※3年時の出席番号順
(令和2年9月6日現在)

第140周年甲府中学・甲府一高同窓会実行委員会組織

■実行委員長：乙黒 洋
■副実行委員長：上田 和男
■クラス幹事長：倉澤 公弘
■副クラス幹事長：岡 博仁
■事務局長：望月 歩
■広報・IT部会：島田 政和
部会長 神田ひろみ
廣瀬 綾子
■会計部会：石川 智基
部会長 古屋 功一
■総務企画部会：倉澤 公弘
部会長 有賀 道子・數野 浩司
大森 清美・若林 実
■会員券部会：齋木 雅司・星野富美子
部会長 上田 和男
原 久美子・山下万里子
坂野 佳野
■広告部会：望月 歩
部会長 伊藤 賢治・渡邊かおり
加賀美幸代子・渡辺 一志
樋口 勇人

■記念誌部会：部会長 加賀美 健
小澤 早苗・原 純子
斉藤 幸子・星野 貴則
仲嶋 洋樹・望月 陵
中島 裕子
■会場部会：部会長 山内 徹
雨宮 由和・関 博子
石川美紀子・長沼 恭子
奥田るり子・堀内三津子
加々美美香・丸山 智子
小林 恭子・武川かおる
清水 宏徳・横山 清香
篠原 広一・渡邊としえ
■強行遠足部会：部会長 岡 博仁
井上 理人・山口 直美
■東京部会：部会長 數野 敏男
川崎 敏伸・早川 浩規
嶋田 幸子

■クラス幹事：岡 博仁
【クラス幹事長】望月 歩
【副クラス幹事長】倉澤 公弘
【1組】古屋 功一
渡辺 一志
【2組】山内 徹
雨宮 由和
小林 恭子
星野 貴則
加賀美 健
小河内信也
平賀貴久子
【4組】折居 篤
大森 清美
平沼 公香
石田 利和
山下万里子
中島 裕子
【6組】保坂 卓
原 久美子
加賀美幸代子
伊藤 賢治
廣瀬 綾子
石川美紀子
有賀 道子
神田ひろみ
渡辺 陽子
【8組】

第 140 周年甲府中学・甲府一高同窓会

学年協賛者氏名

飯沼正光	【3組】	馬場幸枝	保科浩子	丸山智子	篠原恭子	小林司	横山徹	山野老正	天川清一	鎌田豊司	市川男和	雨宮由	【2組】	渡辺一志	森本光俊	堀之内朋行	古屋功一	早川浩規	芹澤速人	佐野浩史	倉澤公弘	神田佳紀	岩井満政	井上理人	一ノ瀬千玄	【1組】
------	------	------	------	------	------	-----	-----	------	------	------	------	-----	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------

太田満彦	石川智基	【4組】	松山亜紀子	深山恵子	平賀貴久子	神保千絵	池田直子	清水美千代	近藤由美	田村麻里	井村敦子	渡邊克久	山本昭彦	望月貴則	星野浩一	藤田信隆	畑川正敏	小池新伸	菊池樹男	川崎秀敏	河合敏	数野健武	加賀美	小田切	小河内	石田幸央	石河浩一
------	------	------	-------	------	-------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	-----	-----	-----	------	------

江刺正行	石田利和	【5組】	奥田るり子	平沼公香	作道清恵子	松尾淳子	萩原教子	長坂由美	立花輝枝	栗原真弓	丸山千代子	高添つぐ枝	鈴木京子	道祖尾直子	近藤清美	大森淳子	前田恵美子	平田茂雄	山本誠一郎	矢ヶ崎嶋雄	前嶋三	古屋宏之	林保宏	野中康格	中井太一	角田篤	折居篤
------	------	------	-------	------	-------	------	------	------	------	------	-------	-------	------	-------	------	------	-------	------	-------	-------	-----	------	-----	------	------	-----	-----

渡邊かおり	野中恵	黒沢明	進藤富美代	保坂卓	三科孝男	上田和男	高橋淳一	【6組】	保坂由里枝	小澤早苗	飯沼佳代	望月せい子	海老澤志保	中島裕子	堀内三津子	岩谷智恵子	嶋田幸子	伊東純子	山下万里子	山本月歩	望本月亨	山本月陵	深澤浩人	樋口一樹	仲嶋洋	清水道貴	長田道也
-------	-----	-----	-------	-----	------	------	------	------	-------	------	------	-------	-------	------	-------	-------	------	------	-------	------	------	------	------	------	-----	------	------

星野富美子	【8組】	尾崎美智	武川かおる	石川美紀子	青山雅美	望月聡子	廣瀬綾子	関博子	渡邊としえ	加々美香	神宮ゆかり	山口直美	向山直紀	保坂武	西山政也	島田和司	數野浩洋	乙黒博仁	岡博治	伊藤賢治	浅川幸夫	青柳良夫	【7組】	原久美子	住かずみ	加賀美幸代子	中西さゆり
-------	------	------	-------	-------	------	------	------	-----	-------	------	-------	------	------	-----	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	--------	-------



編集後記

発行に向けて順調に進んでいた中、新型コロナウイルス感染症の影響により様々なスケジュールの修正を余儀なくされる事となりましたが、ここに第140周年甲府中学・甲府一高同窓会記念誌が無事発刊する運びとなりました。これも同窓会長をはじめ、OB諸先輩、恩師、甲府一高等学校関係者の皆様、そして多くの同級生の皆さんの協力のおかげです。そして昨年夏、30数年ぶりの顔合わせから始まった記念誌作成の活動に多くの協力をくれた記念誌部会の仲間、全ての皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

第140周年甲府中学・甲府一高同窓会
記念誌部会長 加賀美 健



記念誌表紙
写真提供
高橋 淳一
(旧姓市川
昭和63年卒)

第140周年 甲府中学・甲府一高同窓会

日新 ～ともに想いを～

発行日：令和2年11月21日 発行：第140周年甲府中学・甲府一高同窓会実行委員会
編集：記念誌部会 制作・印刷：株式会社少國民社

祝 同窓会



境川カントリー倶楽部

〒406-0851 山梨県笛吹市境川町小黑坂2266

TEL 055-266-5012 FAX 055-266-4689

URL <http://www.sakaigawacc.com>